

本年度の重点目標

・児童生徒一人ひとりの障害の状態等に応じた指導の一層の充実
 ・保護者・地域と連携した社会に開かれた学校づくりの推進
 ・安全・安心な学校づくりの推進
 ・地域における特別支援教育のセンター的機能の推進

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教職員一人ひとりがよりよい学校づくりに主体的に参画している。	B	B	A
	家庭・施設・病院等との密接な連携を図り、地域に開かれた学校づくりに努めている。	B	A	B
2 教育課程・学習指導	児童生徒の実態に応じて、個別の指導計画に基づき、適切に教育活動を行っている。	A	A	B
	社会的自立や生活的自立に向けて、職業教育や自立活動を推進している。	B	A	A
3 生徒指導	多様な児童生徒の実態に合わせた、きめ細かな生活指導に努めている。	A	A	A
	児童生徒会の充実を図り、自主的自発的な活動意欲を育てている。	B	A	A
	児童生徒の学校生活の把握に努め、いじめや問題行動を見逃さず適切に指導を行っている。	A	A	A
4 進路指導	児童生徒や保護者に必要な情報を提供し、保護者や関係機関等との連携を密にしている。	A	A	B
	児童生徒一人ひとりの自己実現に向けた進路指導やキャリア教育を進めている。	B	B	A
5 保健・安全指導	心身の健全な発達を図るため、保健・給食・安全指導を計画的に行っている。	A	A	A
	児童生徒の事故・けが・病気等への対応等を適切に行っている。	A	A	A
6 人権教育	教職員の人権意識の向上を図るとともに、児童生徒の人権を尊重する指導を行っている。	A	A	A
	幅広い人権学習を通して、児童生徒の人権意識を高めるように努力している。	B	B	B
7 環境教育	清掃活動や体験学習を通して、環境について考えるための取り組みを行っている。	B	B	B
	節電やゴミの分別、牛乳パックのリサイクルなどを通して、児童生徒に資源を有効活用する大切さを指導している。	B	B	B
8 交流及び共同学習	地域や学校の実態に即しながら、社会性や好ましい人間関係を育てている。	B	B	A
	交流校や地域との連携を推進し、豊かな人間関係を築いている。	B	A	A
9 教職員の現職教育	各児童生徒の実態や課題に応じた指導支援が行えるよう、授業研究やケース研究などを積極的に行っている。	B	B	B
	I C T機器の効果的な活用のため、研究や研修に努めている。	B	B	A
10 センター的機能の発揮	地域および関係機関との連携を深め、特別支援教育のセンター的機能の推進に努めている。	A	B	B
	児童生徒個々のケースについて、担当を中心に組織的な教育相談活動を行っている。	B	A	A
11 その他学校の取り組み	避難訓練の実施、緊急時マニュアルの整備など、学校防災、危機管理体制の充実に努めている。	A	A	A
	児童生徒がよりよい環境で学習や生活が行えるよう、教育環境の整備に努めている。	B	B	B

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のI C T活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。